

I. 各部門報告 (2012 年度)

日本語教育部門

■2012 年度

留学生センターでは、学内のすべての外国人留学生（学部生・大学院生・研究生・短期留学生）を対象として、ニーズに対応した多様な日本語コースを提供している。以下、日本語教育関連プロジェクトと主たる日本語教育コースについて報告する。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼海外協定校との高レベルプログラム関連の共同プロジェクト

2010 年度より本学の協定校である華東師範大学との共同プロジェクトとして初級教科書の開発を始め、本年度完成した。本年度実施したショートプログラムは、本教科書を使用した学生を中心としたものであり、教科書の舞台を実際にたどることで実感を得た。また、本プロジェクトについては、華東師範大学と共同で、8 月に名古屋大学で開催された日本語教育国際大会のパネルセッションにおいて「日中協同プロジェクト『新界標日本語』の開発」という題目で発表した。

▼日本語科目登録システム改善

2011 年度より、研究生の日本語履修が正規生と同様の全学の web 登録システムに組み込まれるようになり、研究生の全学講習日本語受講のため web 登録が可能となり、修了証がセンター長名で発行されることとなった。

▼公開講座の開催

6 月 10 日【日】に、留学生センター公開講座「日本語で国際交流」を開催した。第 1 セッションでは、重盛千香子氏【リュブリアナ大学日本語科主任】を招き、

講演「中央ヨーロッパの日本研究と日本語教育」、第2セッションでは、留学生との交流ショートスピーチと交流会を実施した。

▼シンポジウムの開催

12月8日に、尾崎明人氏(日本語教育学会会長・名古屋外国語大学教授)、有川友子氏(国立大学留学生指導研究協議会会長・大阪大学教授)、太田亨氏(日韓プログラムコーディネーター・金沢大学教授)を招き、シンポジウム「留学生教育の過去・現在・未来」を開催した。これは本留学生センターが本年度設立20周年を迎えることを機に、留学生教育の主要分野を代表する学外のゲストを招き、これまでの留学生教育を振り返るとともに本学における今後の国際教育を展望していく機会となることを意図したものである。

▼学内行事「YNU日本語スピーチ大会2012」開催

ホームカミングデーにおいて留学生センター主催の「YNUスピーチ大会2012」を開催し、本学学生、OB、市民ボランティア、近隣の一般市民にも横浜国立大学の留学生の存在、彼らの思いを発信し、大学の留学生教育への理解や国際交流の促進をはかるとともに、日本人学生との対話の機会を設けた。今年度は、日本人学生の参加を促し質疑にも加わり、実行委員会から大きなサポートがあった。審査の時間には、昨年同様、華東師範大学のショートステイプログラムの成果発表も行った。尚当日の様子は、翌日の読売新聞朝刊に大会の様子が報道され、センターホームページにも、発表の原稿やパワーポイントとともに、コメント等を掲載、経緯を報告した。

▼学内行事協力

8月に開催された教育人間科学部主催の24年度高校生インターンシップ(横浜北地区、市立、他)受け入れに協力し、特別講義「留学生と日本について語ろう」を開講、留学生と日本人高校生の交流の機会を提供した。

▼SSプログラムの日本語クラスへの受け入れ

学内の他学部のSSプログラムで来日する学生のニーズに応じて、学期途中の日本語コースにおいて、受け入れた。

SS&SV採用プログラム「双方向的日台学術交流プログラム」の一環として1月27日～2月5日までの10日間、台湾大学・政治大学・清華大学からの院生6名を受け入れ、日韓プログラム、世宗プログラム、JOYプログラムの学生等との交流を測った。

▼ SS&SVプログラムへの参加

・10月にSS採用プログラム「長期留学生育成のための協働プログラムー日本語第二専攻生を含む日中相互交流に向けてー」を実施し、華東師範大学から日本語学部の学生7名を受け入れた。今回は、日本語主専攻者だけではなく、日本語第二専攻者を含め、プログラム内に他学部のゼミとの交流や、日本語教育専攻の本学学生による文化紹介、キャンパスツアー、発表準備補助など、より幅広い国際交流プログラムにした点が昨年度と異なる。SS参加学生は留学生センター主催の「YNU日本語スピーチ大会2012」でその日中相互交流の成果を発表した。当プログラムの様子はセンターHPにてその成果を発信している。

さらに、SS&SV採用プログラム「双方向的日台学術交流プログラム」の一環として1月27日～2月5日までの10日間、台湾大学・政治大学・清華大学からの院生6名を受け入れるほか、1月11日16日は日本人学生3名と中国人留学生1名を引率し、台湾大学・政治大学・清華大学を訪問、調査・交流を行い、本学学生の国際派遣に貢献した。

▼ 新規日本語教育プログラムの立ち上げ

教育人間科学部との協力の下、韓国世宗大学日本語学科の学生35名を1年間有料で受け入れる、新たな留学プログラムの立ち上げを準備した。2013年4月の本格的開始に先立ち、2012年10月からは5名を試行的に受け入れた。

2. 日本語教育コース

▼全学講習日本語コース／JOY日本語プログラム

「全学講習日本語コース」は、本学に在籍するすべての留学生に対して開かれている日本語コースで、単位の認定は行わず、希望者に修了証を発行している。「JOY日本語プログラム」は、短期交換留学プログラムの学生を対象とする単位認定を行うプログラムで、全学講習日本語コースとの同時開講を行うことで、コースの選択肢を広げ学習者のニーズに応えている。全学日本語コースについては、単位認定を行わないというコースの性質から、受講者の受講履歴や受講者数の把握が課題となっていたが、学務部の協力得て、2011年度から、研究生対象のweb登録、受講証明書の発行などの体制が整備された。また、2012年は、今後増えるであろう、学期途中の受け入れや、来日前の日本語力測定も想定し、webによる日本語能力試験 J-cat を全てのレベルにて試行し、その妥当性を検討した。

▼日韓共同理工系学部留学生事業（日韓プログラム）

2012年度10月には第2次事業3期生7名の日韓生を受け入れ、半年間の予備教育を担当した。日本語クラスは、4技能を全体的に養成するクラスを6コマ、漢字クラス、書く・話すクラス各1コマの計8コマを必修として履修させた。従来のチューターによる問題演習に替えて、本年度からは理工系留学生のための英語クラス1コマ、理工系留学生のための数学・物理の専門クラス2コマを新規に開講、専門教育の充実を図った。

さらに、大学での理系科目講義に慣れるために、理工学部教員の指定する学部理系科目講義を2コマ聴講し、その予習・復習を個人チューターとともに行うよう指導した。そのほか、2回にわたり、関東圏5大学合同の講演会およびプレゼンテーション発表会を行った。

また、12月には韓国における予備教育を担当している慶熙大学関係者を招き、

本学理工学部教員によるモデル授業、および専門教育に関する意見交換会を大阪大、金沢大、佐賀大ともに開催した。

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、大学院に進学を希望する国費研究留学生、および教員研修留学生のためのコースであり、未習者に対しては週8コマ、既習者に対しては週6コマの集中日本語クラスを用意している他、全学講習日本語コースの関連クラスの受講も薦めている。日本語研修コースには、教育人間科学部受け入れの教員研修コースの教員研修生、大学推薦の国費留学生、中国政府派遣大学院留学生（高水平プログラム）、さらには短期交換留学生（JOY）、研究生も受け入れた。

▼学部教養教育：外国人留学生のための授業科目（日本語・日本事情）および国際理解科目

教養教育科目「日本語中級」、「日本語上級」、「日本語演習」、「日本事情」と国際理解科目としての日本語科目にて、年間延べ約300人の学生が受講している。特に2012年度は集中クラスで用いるワークブックを作成、コースの中で試行しながら改訂を継続し、来年度の出版を予定している。

▼英語による特別プログラムの日本語科目

大学院国際社会科学研究所の英語による特別プログラム財務省国税局提携による特別プログラム（MPE）の日本語クラスを開講した。

短期留学部門

短期留学担当教員は、部局の留学交流担当教員、学務部教務課短期留学担当、短期留学(派遣・受入れ)専門委員会と連携し、海外協定大学との連絡調整や派遣留学の促進等、学生交流の覚書等にもとづく短期交換留学として留学生派遣及び受入れに係わる諸業務を担当している。

1. 短期留学生派遣事業

派遣留学生数

21年度	22年度	23年度	24年度
24名	38名	31名	51名

短期留学担当教員は、学務部教務課短期留学担当とチームを組み、協定大学との交渉、留学説明会、留学ガイダンス、多言語トークタイム、国際交流科目、サマースクール、TOEFL 対策講座、短期留学生派遣同窓会等の活動を通して派遣留学を推進している。

2. 短期留学生受入れ事業

受入れ学生数

21年度	22年度	23年度	24年度
51人	55名	28人	53名

協定大学との連絡調整、国際交流科目の運営の他、受入れ留学生の生活就学上の指導を行っている。

3. 2012年度の主な事業

短期留学(派遣・受入れ)に関わる教育・運営上のルーチン業務の他に実施した

主な業務は、次の通りである。

新規協定校開拓

ロジャー・ウィリアムス大学(アメリカ)

サマースクールの実施

韓国の4大学(淑明女子大学、ソウル市立大学、釜慶大学、嶺南大学)の4プログラム、シドニー工科大学、スペインのアルカラ大学のサマープログラムに学生17名を派遣した。

ボランティア団体との連携

三井ボランティアネットワークのメンバーと短期留学生(受入れ)の一対一の交流制度を総括する他、横浜国立大学市民ボランティア及び本学学生有志と協力し、「クールジャパン」(日本文化紹介科目)及び日本語6科目の各授業に毎週、日本人社会人及び本学学生が10名程度参加して留学生を支援し交流を行う授業を設計・実施した。

多言語トークタイム

ランチタイムに受入れ留学生が母語を教える活動。本年度の使用言語は、英語、中国語、韓国語、ロシア語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語だった。

YOKOHAMA クリエイティブシティ・スタディーズ特別プログラム(YCCS)との連携

短期留学担当教員は、平成25年10月開講の同プログラムのコア科目となる教材作成／実習ベースの科目を担当するため、他部局関係教員と「YCCSプログラム担当教員チーム」を編成し、特色ある教育内容の準備を進めている。

また、既存の短期留学受入れプログラムと YCCS プログラムの相乗効果を狙って、短期留学プログラムの体制を後者の体制に合わせ変更する調整を行っている。

生活指導部門

2012 年度に生活指導部門が行った主な業務および取組みは以下のとおりである。

1. 留学生センター所属研究留学生の指導

▼大使館推薦国費留学生：研究留学生（日本語研修生）の受入および生活指導
前期 5 名：モンゴル1、ハイチ1、パレスチナ1、ブラジル1、オーストラリア1
（このうち 4 名が本学へ 1 名は他大学へ進学）

後期 0 名：

渡日前連絡、チューター説明会、オリエンテーション、個別面談等を行い、日本での大学生活や専門分野進学への準備が円滑に進むようサポートする。

2. 外国人留学生に関わる相談業務

週10件から30件。主な相談内容は、住宅関係（家探し、大家とのトラブル、寮トラブル）、金銭トラブル、健康、交流、日本語、経済、奨学金、手続き補助等。年間を通してみると、新学期（4月と10月）に相談件数が多く、ここ数年の年間総数は650件から800件である。

3. 外国人留学生に対する支援業務

外国人留学生の日本での生活ができるだけ順調に営まれるよう、以下のような支援に取り組んだ。

▼交流・相談室（105：いちまるご）」の運営

105は留学生センター1階105室に設けた交流や相談のための部屋で、留学生のニーズに気軽に応じられるように学生グループがスタッフとして対応している。開室時間（11：30-14：30）の活動として、情報提供、手続きの手伝い、日本語会話の相手、交流等を行う。また、このほか、留学生と日本人などの一般学生との交流を促進するため、交流イベントを開催している。生活指導部門

の教員は、105の学生達と密にコンタクトをとり、スタッフの指導育成や活動のサポートを行う。

年間を通じて行われる主な交流イベントは以下のとおりである。

- ・新入留学生対象のキャンパスツアー（4月、10月）、
- ・ウェルカムパーティ（4月、10月）
- ・おにぎりパーティ（5月）、
- ・BBQパーティ（7月ないし8月）、
- ・秋のイベント（11月頃）、
- ・留学生と日本人学生との交流合宿（アステージキャンプ）（春、秋）、
- ・年始年末パーティ（12月ないし1月）

今年度の交流イベントへの参加人数は述べ700人を越えている。留学生だけでなく、日本人学生などの一般学生の参加が増えてきている。

2012年度の新たな取組としては、毎日の105室での対応のほか、6月から「日本語トークタイム」を週1回昼休みに開催し、留学生の日本語会話練習の機会とそれを通じての交流の機会を提供したこと、これまで秋に行っていた「交流合宿（アステージキャンプ）」に加え、春にもアステージキャンプを行ったことが挙げられる。大学祭では、105の有志がブラジル料理の出店を昨年に引き続きサポートした。この他、学生スタッフは国際課から依頼を受け、見学旅行などにチューターとして参加しているほか、海外から本学を訪問する学生との交流への要請にも応じている。

▼広報活動：配付冊子等の作成

留学生への情報提供および、日本人学生と留学生との交流の促進を目的に以下の印刷物を作成・改訂し、配布するとともに、ウェブサイトへの掲載を行っている。

- ・留学生との交流ハンドブック 2012年度改訂版
- ・留学生のための学内窓口案内（每学期 改訂）
- ・学内外の交流イベントリスト

▼ 外国人留学生支援方策検討専門小委員会における委員長および事務局の業務

- ・ 委員会の開催（年7回）
- ・ 委員会企画等の実施：
 - ◆ 留学生が困っていることについてのアンケート調査（7月～8月）。
 - ◆ 住宅を借りるときに注意することについての冊子（3月刊行予定）。
 - ◆ 留学生グループ代表との懇談会（2月予定）

このほか、当委員会では次の事項を実施してきた。「留学生ネット」（留学生向けの情報発信網）の立ち上げと運用（2008年度から）、「教員のための留学生指導に関する10の情報」作成配付（2005年度から）、「地震対策カード」改訂配付（2011年度）、生協でのハラルメニュー提供への働きかけ→第2食堂で実現（2011年度）、「住宅を借りる際の注意事項カード」作成と配付（2009年度）、生協のメニューの英語併記提案（2009年度）

▼ 就職活動支援

留学生の就活支援団体(NAP)による就活セミナー開催をサポートした(2009年度から毎年数回実施)。また「日本企業と留学生」と題する就活支援授業を教養教育科目（「日本事情E」）として実施（2011年度から）を行った。

日本企業（日系企業）に就職している卒業留学生に対するインタビュー調査（就活経験、会社での経験について）（2011年度）

▼ 地域団体との連携による留学生支援プログラム等の実施

- ・ 地域ボランティア団体(KSGG)との連携による個別日本語支援および日本文化紹介イベント開催(年数回)への協力(常時留学生30数名が支援を受けている)。個別支援では、レポートや論文の日本語のチェック、就職対策、文化紹介、会話の相手、諸手続きの手伝い等のサポートが行われている。
- ・ ホームステイ体験プログラム実施（6月、12月、3月に実施：毎年約50組）

- ・留学生会館における地域ボランティアによる日本語教室（週2回）開催の支援
- ・和田町住民との交流（2008年度～2010年度）、地域交流科目（「留学生の居場所づくり」）の実施（2008年度）
- ・左近山団地住民と留学生との交流の支援（2011年度より）
- ・この他、地域団体等の要請を受けて、横浜パレードへのアフリカ留学生の派遣、韓国語指導留学生の募集、子供会行事への学生協力者派遣等を行った。

▼他大学との連携

- ・全国国立大学留学生指導研究協議会への参加
- ・同協議会代表幹事（2008年度～2011年度）を担当

▼ その他の指導業務

新入留学生オリエンテーション（4月、10月）、一時貸付け面接、社員寮面接およびトラブルへの対応。高水準プログラム院生に対する日本語教育コーディネーション、留学生の住宅問題への対応。

4. 横浜国立大学留学生会館 主事

次のような業務を行った。

- ・入居者のトラブル等への対応
- ・レジデントアシスタント（日本人学生）の選出と指導
- ・地域ボランティアによる家族入居者向け日本語教室（週2回）開催の支援
- ・日本語教育専攻院生による家族入居者向け日本語教室（週1回）開催の支援
- ・イベント開催への協力（スプリングパーティ、ウィンターパーティ）
- ・ロータリークラブとの交流

5. その他

▼シンポジウムの開催

12月7日に、シンポジウム「留学生教育の過去・現在・未来」を開催した。

留学生教育の幅広い領域と深く関わって来た本センターの門倉教授の講演「教養とリテラシー」を行うとともに、留学生教育の主要分野を代表する学外のゲスト3名：尾崎明人氏(日本語教育学会会長・名古屋外国語大学教授)、有川友子氏(国立大学留学生指導研究協議会会長・大阪大学教授)、太田亨氏(日韓プログラムコーディネーター・金沢大学教授)による講演が行われた。

▼オープンキャンパスへの参加(8月)：105の活動紹介